



蒼生会
武藤 義彦 議員

市長選出馬に向けた決意は

質問 田口市長の任期中の自己評価と、市長選出馬に向けた決意を伺う。

答弁 私のすべての評価は、市民意識調査の幸福度の向上にある。幸福度は若干向上しており、市政への取り組みが少しずつ結実してきていると思う。ただ、仙北市には多くの課題が山積しており、様々な取り組みが必要である。仙北市民の幸福度をより一層向上させていくために、今後も市長として幸福度全国一に向けて進んでいきたい。

内陸線松葉駅の現状について

質問 松葉駅には連日多くの観光バスが停車しているが、駅前が狭いため、国道で切り替えしている状況である。事故防止のためにも、駅前にスペースを確保する等の対応策が必要ではないか。

答弁 令和6年度の松葉駅での団体バス利用状況は、約1,450

台である。令和5年度には、市が駐車場に隣接する土地を取得し、拡幅を検討したが、緊縮財政の中で断念した経緯がある。他の安全確保に向けた手法も含め、内陸線や沿線事業者等との検討が必要と考えている。駅前駐車場の状況は把握しているが、内陸線の所有管理であるため、会社と協議したい。



■多くのバスが停車する松葉駅

【その他の質問】

◆子どもの安全確保について

◆高収益農業について



新成せんぼく
中村 和彦 議員

これからの観光行政について

質問 桜祭り後の観光客の減少を防ぐための、誘客について伺う。

答弁 グリーンシーズンの魅力発信について、ドラゴンアイなど周遊意欲をかきたてる期間限定のスポットについて、SNSや多言語対応サイト等で誘客宣伝に努める。

質問 宿泊税の進捗状況について伺う。

答弁 宿泊税に対する理解が十分浸透していない。何に使うのか等、事業者の皆様へ伝える事が重要であり、説明会などを定期的に開催し、一日も早い宿泊税導入に向け、今後も進めて参りたい。

質問 新たな観光地として、大覚野牧場を小岩井農場並みとは言わないが、整備をして西木地区の活性化と人口減少対策を行ってはどうか。

答弁 観光資源としての活用による経済効果や地域活性化への一定の評価は考えられるが、現状では、現実的ではないと判断している。畜産を含む農業の情報を収集し、

地域課題の改善に努めたい。

質問 抱返り溪谷への観光客誘客についてどのような戦略が必要か伺う。

答弁 東北屈指の景勝地としてのブランドを確立し、SNSやPR動画などメディアを活用し、国内外に広く発信していき、より多様な観光客の誘致とリピーター創出に努めていく。

交通の利便性について

質問 秋田新幹線こまちの始発・最終の停車を、要望してはどうか。

答弁 毎年、改善要望を行っている。JRでは、最短で秋田―東京間を結ぶ事を目的としており、難しい状況であるが、繰り返し要望していきたい。



■長期間閉鎖されていた回顧の滝方面への遊歩道が7/9から開通した抱返り溪谷



澤田 雅亮 議員

市民福祉部関連について

質問 育児休暇中の保育園へ預ける時間を伸ばせないか。

答弁 家庭の都合などにより個別の対応もしているので、御利用の園に相談して頂きたい。

質問 長期休み中の児童クラブの弁当提供について。

答弁 長期休み中の児童クラブの弁当のニーズは把握している。しかし、放課後児童クラブは定員を遥かに超える対応をしているため、弁当の提供に係る業務が困難な状況である。

質問 放課後児童クラブにおける学力向上の施策をどのように考えているか。

答弁 現在の児童クラブは定員を超える状況にあり、学力向上を目指す取組みの素案や施策は、現状難しいと考える。

質問 様々なスキルを持った仙北市の人材がチャレンジしやすい環境を作るために、放課後児童クラブの学習力アップに取り組んではどうか。

答弁 放課後児童クラブは学習の

場ではないことから、実施は困難と考える。

桜、新緑の観光シーズンについて

質問 今年の花見シーズンの観光客数の推移と一人当たりの消費単価は。

答弁 令和7年は81万7,000人、市内における観光単価は把握できていない。

質問 桜の時期の出店の位置を分かりやすくするための看板、案内等を設置できないか。

答弁 7月に予定している実行委員会との協議を行う際に、意見・要望を聞き、今後に繋げたい。

質問 新緑シーズンの観光客を増やすための目標や考えをどのように持っているか。

答弁 集客目標等は設定していないが、四季の魅力を発信していくことが重要であると考える。

【その他の質問】

◆よりチャレンジしやすい環境整備に向けた市長の来期の心構えは。



日本共産党
平岡 裕子 議員

緊急事の一斉伝達方策は

質問 4月1日から、防災行政無線での音声伝達が無くなり、慣れ親しんだ朝・昼・夕方の時刻を知らせるチャイムも無くなった。せめて昼だけでも、何かしらの音が欲しいという市民の願いをどう受け止め、緊急時の一斉伝達はどのように行うのか伺う。

答弁 屋外のスピーカーを用いた防災行政無線は聞こえにくい、街中ではうるさいなどの意見があったほか、システムの老朽化が著しく、多額の管理費用がかかる課題があつて、現在の「@（アット）せんぼく」に切り替えた。それにより、チャイムを廃止することになった。緊急時には、ライン通知、戸別受信機からのお知らせ、テレビのLアラート、市のライン、安心安全メールに登録されていない方にも、緊急速報メールで、仙北市内にある各社携帯端末に一斉お知らせをする。ご理解とご協力を。
答弁（田口危機管理監）各携帯の緊急速報メールに、間髪を入れずにアラームが鳴るようになってい

る。市の消防車両はサイレンを鳴らして走行できる機能を持っているので、消防団に一斉伝達をして一斉に運用できるようにしたい。

質問 一斉伝達のために、各出張所にサイレン発信できる設備をすべきではないか。

答弁 出張所単位でのサイレン設置の提案をしつかり検討させていただきたい。



■音声は途絶えたがそのまま設置されている防災行政無線

【その他の質問】

◆インターナショナルスクール誘致事業について

◆高齢者補聴器購入助成制度について

◆こども誰でも通園制度について



高久 昭二 議員

文化遺跡を活用した地域発展施策について

質問 田沢湖、神代、黒倉遺跡の出土品等を展示できる特設コーナーを黒倉抱返り会館に併設し、国内外の観光客への紹介や、学校の教材として生かしたらどうか。

回答 黒倉遺跡は2回の発掘調査を行い、県の監修を得て田沢湖駅2階の「森と遺跡の展示室」で公開し、多くの観光客や市民に紹介している。学校の教材は県の文化財保護室が「秋田の縄文」という小冊子にて黒倉遺跡の出土品等を紹介している。

住民サービス向上による幸福度を高める施策について

- 質問 ①小・中学校の給食の無償化の実現
②市道の補修、側溝改良、排水路の整備
③物価高騰対策として再度「商品券」を給付

①給食の食材費高騰により、小学

生月額42円、中学生44円を市が負担している。完全無償化については市の財政負担が大きいので、国や県からの財政支援を強く求めている。

②交通量の多い路線や劣化度などを勘案し計画的に改修等を進めている。突発的に発生した緊急性の高い修繕については補正予算対応も考えている。

③8月末を期限とした、市民税課税世帯への一人4千円の商品券を発行している。再度の給付は、現在考えていない。

田沢湖黒沢工業団地の活用について

質問 黒沢工業団地はレタス水耕栽培も断念し、雑草が伸び放題である。首都圏の誘致に拘らず、近隣の木材工場やパルプ製造、野菜やイチゴ栽培、ドローン関連会社などの活用はどうか。

回答 製造業にとっては、土地が狭く誘致が難しい。農業や介護施設も選択肢としてはいいが、地元企業の雇用に影響を与えない形で、働く人も連れてくるような企業が望ましいと考えている。



新成せんぼく 小田島広仁 議員

安全・安心な観光地を目指して

質問 廃業、休業している観光施設が増えている。今年の雪で崩壊した施設もあり、見た目も勿論だが、危険な状況であり、歩行者や近隣に生まれている方々も不安で仕方がないと思われるが、市としての対応等について伺う。

回答 現地調査で周辺への影響を確認し、空き家等の適正管理等に基づき、所有者、管理者の確認を行っている。

所有者が判明した場合、傷み具合や周辺への影響等を記したお知らせ文書を送り、事態が改善しない場合は条例に基づき助言、指導と段階を上げながら解体を含めた適切な管理をするよう促している。

今後は緊急措置の実施要件や代執行手続の見直し、法定協議会設置の検討、所有者が行う空き家の適切な管理を促すための支援策等、抜本的な対応が必要との認識の下に、条例改正等も含めた検討を行う。



雪で崩壊した宿泊施設

安全・安心な暮らしのために

質問 市民の安全を守り、安心に暮らすためには消防団の充実、団員の方々の頑張りが必要である。団員数の現状、長時間の出勤に対して、加算金を検討しないのか伺う。

回答 6月1日現在、消防団員数407名、充足率64.6%、全体数630名に対し223名が不足している。

長時間出勤の加算金については、美郷町、大仙市との2市1町での連携が不可欠なので、確認をしながら、今後、実現できるか検討していきたい。

その他の質問

◆安全・安心な観光地を目指して(カラ吹き2号源泉)

◆安定した温泉事業を目指して



蒼生会
高橋 輝彦 議員

人口減少対策としての「角館 高校魅力化」の取り組みを

質問 新規事業である仙北市と角館高校が共同で県外生徒の入学受入れを推進する「地域みらい留学推進事業」を人口減少対策の一環として、市が主体的に取り組むべきだ。

答弁 仙台圏、首都圏からの留学生を受け入れ、本人の将来の移住や家族の2地域居住などを目指している。令和8年度3名、令和9年度5名、令和10年度7名の受入れを目標としている。

質問 高校生に仙北市の観光資源等を活用した人口減少策を考えるカリキュラムや、志願者数増加に向けてスポーツ部、文化部共に全国大会の常連校にするための関係団体による「角館高校魅力化」プロジェクトチームを結成してはどうか。

答弁 「地域みらい留学」をきっかけに、さらに仙北市への愛着が沸くプログラムの構築や、これまでの枠組みを超えた、市民も一緒になっての角館高校の魅力アップ

に有効な方策を検討したい。

インターナショナルスクール誘致事業はどうなる？

質問 白岩校の開校延期や本校舎の予定地など、まだ流動的な部分が多いのではないか。

答弁 白岩校は中庭に建設予定だった寄宿舎を止め、空き家を活用するため開校が延期される。本校舎予定地の田沢湖ハートハーブは8月に埋蔵文化財調査が終了し、貴重な文化財が出なければ、改修工事の準備を始め



■埋蔵文化財調査中のハートハーブ第2駐車場奥の杉林

る。

質問 白岩校の寄宿舎にする空き家の土地、建物を購入するとのことだが、日本の観光地の外国資本による土地の取得が増加している現状を考慮した対応も必要ではないか。

答弁 この事業に関する連携協定に沿った形での不動産取得である。しっかり情報交換し不安を抱くことがないよう進める。



蒼生会
真崎 寿浩 議員

非常時の情報伝達方法について（防災行政無線）

質問 3月末で屋外スピーカーによる情報伝達は廃止となり、4月から新システム「@（アット）せんぼく」に移行したが、廃止後の影響について、住民から苦情や意見要望等はないのか。新システム運用での戸別受信機の貸与は順調に行われているのか。

答弁 屋外スピーカーから流れていた時報が無くなり寂しいとの意見を得なかった事情を説明している。戸別受信機の貸与は、介護施設や公共施設も含め、5月末現在で284台貸与している。当初は同居している家族のどなたもスマホ等を持たない世帯限定としていたが、6月広報に申込みチラシを全戸に折込み、貸与条件を緩和して追加募集を行っている。今後とも状況を見ながら貸与条件を検討し、多くの世帯に貸与していきたい。

質問 非常時・緊急時の情報伝達方法として、他の手法による伝達

方法を検討する必要はないのか。

答弁 緊急時の伝達方法について、新年度から、防災行政無線を全て廃止してスマートフォンを活用したシステムに移行した。全てスマートフォンでの発信や戸別受信機だけでいいのかと思うところがある。今後、既存の施設・設備の活用や出張所単位でのスピーカー等を活用しての緊急時のサイレン等による伝達等、市民に情報を届けるような方策はないか検討していきたい。



■3月末で廃止された防災行政無線

その他の質問

- ◆市道における交通弱者への安心安全の確保について
- ・ガードレールの設置状況は万全か
- ・道路区画線は安全がしっかりと確保されているのか